

日本経済は原油や原材料価格の高騰、円高、米国経済の急減速などにより足踏み状態となり、景気減速感が強くなってきました。モノづくり産業と輸出の好調に支えられて拡大基調を維持していた中部経済も、このところ景況感の悪化が表れてきたようです。ただし中部地域の雇用情勢は人手不足が続いており、2009年春の大卒採用は依然として増加傾向にあると報じられています。

もっとも高水準が続いている大卒採用の内容を見てみると、モノづくり、すなわち製造業においては文科系より理工系人材に対する積極採用が目立ち、モノづくりに強い中部圏では理工系人材の獲得競争が激化していると指摘されています。つまり、文科系人材は将来の業容拡大に備え、理工系人材は主に技術開発の促進を図るために採用計画が作成されていると考えられるわけです。

とくに製造業ではグローバル競争の激化を背景に優れた技術者（エンジニア）に対するニーズが高く、日本の大手メーカーでは国内の留学生を採用したり海外の大学で採用活動をするケースが増えてきたようです。しかし日本では「理科離れ」が進み、日本の大学では理工系への入学人数が減少し続けているのが実態です。

そこで非常に注目されるのが、



HIROFUMI TANGE

CAD講座による 文科系人材の活用

丹下博文氏

1960年愛知県生まれ。早稲田大学法学部卒業。同大学院修士課程修了。主に倒産と企業再生を研究。米・ロンドン・シアトル・ボストン・オーストラリア・同大学院客員研究員。UCLA（米カリフォルニア大学）経営大学院客員教授。社会公共政策大学院客員研究員。著「大変革の潮流」（朝野舎）、「二知の文明」（国立印刷局）、「環境基礎講座」（日）、「企業経営の社会研究」（中央経済社）、「MBA環境」。現在、愛知学院大学経営学研究所教授、博士（経営学）。

CAD講座による文科系人材の活用。実際、愛知学院大学のエクステンションセンターで今年5月から初めて開講された「3次元CAD対策講座」には、文科系主体のキャンパスにもかかわらず20名の定員に対して受講希望者が殺到し願書締め切りの2週間も前に定員オーバーになるほどの人気。

3次元CADは製品の立体形状を分かりやすく表現できるだけでなく、実際の組み立て工程や完成品の動作検証ができるため、工業製品の試作とかプレゼンテーションの分野で幅広く利用が拡大しています。また、理数系が苦手な学生でもCADの操作は決して難しいものではなく、モノづくりが好きかパソコン操作が得意であれば習得できるのです。

この講座の運営を担当するキャリア技研(株)代表取締役社長の富田茂氏は「文系人材の理系活用のための職業訓練として定着すれば幸いです」と語っていますが、定着すれば社会的意義も大きいのではないのでしょうか。

CAD講座の問い合わせ先：

キャリア技研(株)

〒453-0013 名古屋市市中村区

亀島2-6-16 大升ビル

電話 (052) 454-0495・0497

URL : <http://www.calio.co.jp>